

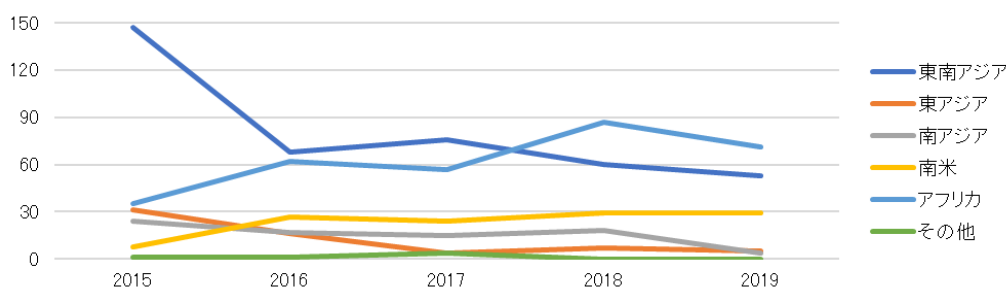
海賊問題の現状 (2019) - ギニア湾における襲撃リスクの増大 -

今回の Topics では、国際商業会議所(ICC)の国際海事局(IMB)が発行した海賊問題に関する「2019 Annual Report」¹をもとに、世界の海賊問題の現状をご紹介します。

1 海賊事件の発生件数

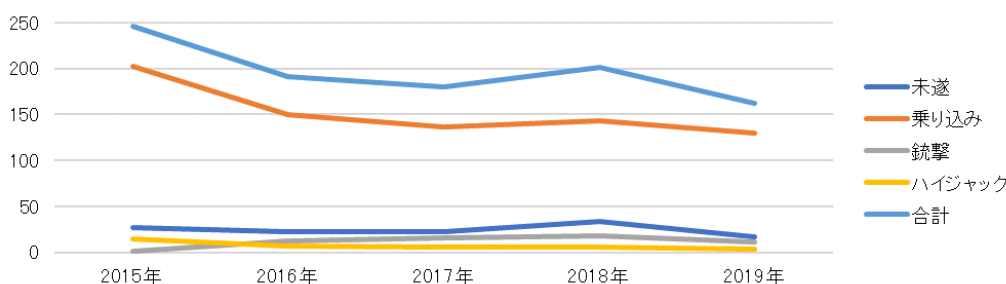
2019年1月1日～12月31日の1年間で、全世界で合計 **162 件** の海賊および武装盗難事件が IMB 海賊通報センター(PCR)に報告されています。業界を挙げた取り組みの効果もあり、2018年に報告された201件に比べると全体としては減少となっていますが、特にギニア湾を中心とした特定の水域については、むしろリスクの増加が見られています。

(1) 発生地域別 (単位: 件)



	東南アジア	東アジア	南アジア	南米	アフリカ	その他	合計
2015年	147	31	24	8	35	1	246
2016年	68	16	17	27	62	1	191
2017年	76	4	15	24	57	4	180
2018年	60	7	18	29	87	0	201
2019年	53	5	4	29	71	0	162

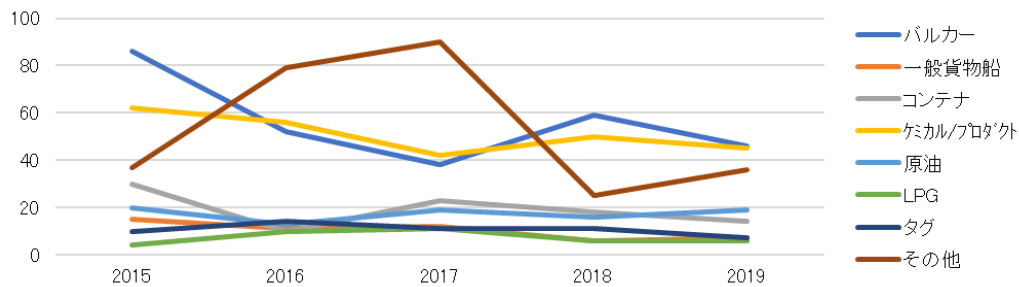
(2) 攻撃態様別 (単位: 件)



	未遂	乗り込み	銃撃	ハイジャック	合計
2015年	27	203	1	15	246
2016年	22	150	12	7	191
2017年	22	136	16	6	180
2018年	34	143	18	6	201
2019年	17	130	11	4	162

¹ “ICC IMB Piracy and Armed Robbery Against Ships – 2019 Annual Report”
(<https://icc-ccs.org/index.php/piracy-reporting-centre/request-piracy-report> に本レポートの入手方法が掲載されています。)

(3) 船種別 (単位: 件)

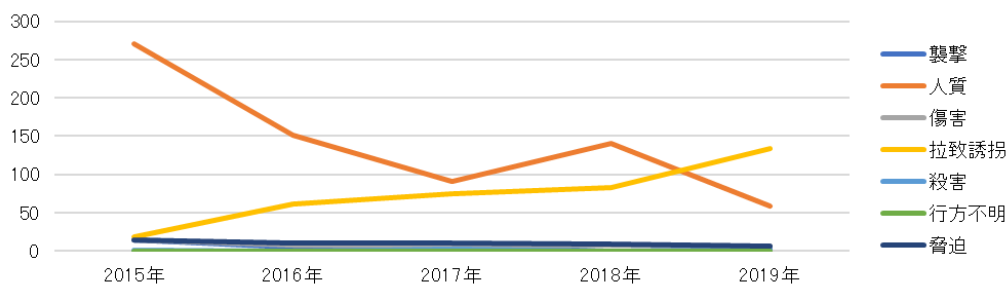


	バルカー	一般貨物船	コンテナ	ケミカル/プロダクト	原油	LPG	タグ	その他
2015年	86	15	30	62	20	4	10	37
2016年	52	11	10	56	13	10	14	79
2017年	38	12	23	42	19	11	11	90
2018年	59	6	18	50	16	6	11	25
2019年	46	7	14	45	19	6	7	36

2 乗組員の被害状況

拉致・誘拐 (Kidnap/Ransom)² の人数は 2018 年より 60%以上増えて 134 名となっており、近年増加の一途を辿っています。また、その国別内訳は、ナイジェリア(48名)、ベナン(35名)、カメルーン(31名)、トーゴ(7名)と、ギニア湾の沿岸諸国がその約 90%を占めています。

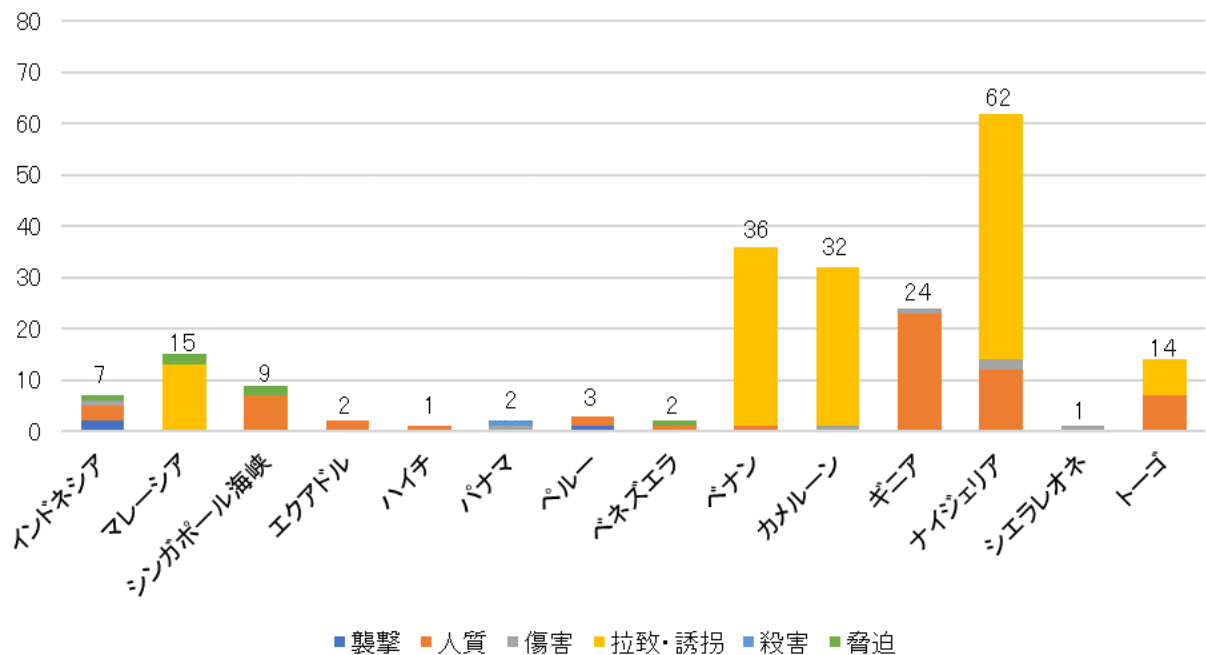
(1) 暴力の態様別 (単位: 人数)



	襲撃	人質 ³	傷害	拉致・誘拐	殺害	行方不明	脅迫	合計
2015年	14	271	14	19	1	0	14	333
2016年	5	151	8	62	0	0	10	236
2017年	6	91	6	75	3	0	10	191
2018年	0	141	8	83	0	0	9	241
2019年	3	59	7	134	1	0	6	210

² ここでは、「人質」(hostage)とは船舶内にて拘束されること、「拉致・誘拐」(kidnap/ransom)とは船舶から拉致され、陸上で拘束されることを意味しています。

(2) 国別分類 (2019 年のみ。単位：人数)



	襲撃	人質	傷害	拉致・誘拐	殺害	脅迫	合計
インドネシア	2	3	1			1	7
マレーシア				13		2	15
シンガポール		7				2	9
エクアドル		2					2
ハイチ		1					1
パナマ			1		1		2
ペルー	1	2					3
ベネズエラ		1				1	2
ベナン		1		35			36
カメルーン			1	31			32
ギニア		23	1				24
ナイジェリア		12	2	48			62
シエラレオネ			1				1
トーゴ		7		7			14
小計	3	59	7	134	1	6	210
合計				210			210

3 各地域の状況

(1) ギニア湾

2019年にギニア湾で拉致・誘拐された乗組員の人数は121名にのぼり、前述のとおり、世界における拉致・誘拐の事案の90%以上を占めています。更に、2019年に世界で報告されているハイジャック事案の対象となった4隻全て、および銃撃事案の11隻中10隻はギニア湾において発生しています。年間の拉致・誘拐被害121名のうち、第4四半期において実に64名もの乗組員が誘拐されており、特に12月前半に発生した2件の事案において、それぞれ19名および20名の乗組員が誘拐被害に遭っていることから、この傾向は現在もなお強まっているもの考えられています。

IMB は、ギニア湾において過去にない水準の乗組員の誘拐事案が発生していることを踏まえ、この水域を航行するすべての船舶に対して、特に警戒を強めるよう勧告しています。なお、沿岸国の領海外でも多くの事案が発生しており、ギニア湾を航行する船舶については、同水域を十分に出域するまで、高い警戒レベルを維持することが重要になります。

また、IMB は、業界として、リスクの高い水域を正確に把握し、それらの水域における海賊事案の増加に適切に対処するためにも、ギニア湾を航行する船舶と関係機関との間の密な情報交換が重要になると強調しています。



■ 図1 世界の海賊発生状況 (ICC IMB Piracy Reporting Center 作成⁴⁾)

(2) ソマリア

2019 年、ソマリアにおける海賊行為や武装強盗の事件は報告されていませんが、IMB によれば、ソマリア海賊はソマリアおよびインド洋で攻撃を実行する能力をまだ保有しており、この水域を通航する船舶および乗組員が警戒を怠らないよう警告しています。

実際、2020 年 1 月 11 日には、アデン湾の南南東約 45 海里の位置で、船舶が高速 7 隻の不審な接近を受けた事例も報告⁵されており、この水域の脅威がまだ残っていることを示す形となっています。

(3) 東南アジア

シンガポール海峡では、2019 年に 12 件の武装強盗事案が報告されています (2018 年は 3 件)。また、そのうち未遂は 2 件のみで、残りの 10 件において、船舶への実際の乗船が確認されています。こうした状況にもかかわらず、IMB としてはシンガポール海峡での攻撃の強度は「低レベル」であり、基本的に被害は強盗に限定されるものと考えられると述べています。

また、インドネシアの港での武装強盗攻撃は、2018 年の 36 件から 2019 年は 25 件に減少しています。IMB によれば、インドネシア海洋警察 (IMP) と IMB PRC の対話と調整がこの減少に繋がったとされています。

以上

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」
https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html
 TOKIO MARINE Topics (船舶)
https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/news/tokiomarine_topics/hull.html

⁴ <https://www.icc-ccs.org/index.php/1286-unprecedented-number-of-crew-kidnappings-in-the-gulf-of-guinea-despite-drop-in-overall-global-numbers>

⁵ “News: Incident reported near to Port of Aden, Yemen (17 Jan 2020)” (The Standard Club: News and Commentary, <https://www.standard-club.com/risk-management/knowledge-centre/news-and-commentary/2020/01/news-incident-reported-near-to-port-of-aden-yemen.aspx>, 2020 年 1 月 20 日最終閲覧)